

## 全学英語教育のスタートと英語空間づくり

英米学科 宮浦 国江

### 1. はじめに

平成21年度の英語部門の活動として特筆すべきは、過去2年間の検討を経て、いよいよ全学英語教育が始まったことである。また、同時に展開してきた学内英語空間創設の活動も引き続き行われてきた。以下で本年度の活動を振り返る。

### 2. 全学英語教育新体制のスタート

#### 2.1 英語科目担当者の集い(1)

20年度1月末に、非常勤講師も交えて、全学英語教育担当者の集いを開催した。そこで、21年度からの全学英語教育について説明し、内容(昨年度活動報告書に掲載済み)の周知徹底を図った。「英語IB」の成績評価については、検討の末、今年度については、統一英語テスト(CASEC利用)50%、教授者による評価50%で始め、今後も検討を続けることとした。また、英語教育共同研究室(E406)に配備した、English for Interaction用推奨テキストを中心とする、教材、参考資料を実際に見て頂いた。これらは後日、貸し出し簿を用意して随時利用できるようにした。

#### 2.2 英語プレイスメント・テスト

21年度新学期オリエンテーション期間にあたる4月6日に新入生全員にCASECによる英語プレイスメント・テストを行った。H204、H205、情報処理教育端末室2室、G204の5室を利用し、午前11時20分、13時30分、14時50分、16時10分の4回転で、771名の全入学者のうち休学予定者を除いて計766名が受験した。

即日、結果に基づき、クラス分け作業を行い、翌7日午前中には掲示をした。

・今年度は新入生学科ガイダンスとの並行実施であったため、学科によっては、ガイダンスを中断しての受験となった。次年度には改善予定である。

・学生証を携帯していない学生が、受験前のデータ入力で手間取ってしまった。来年度以降、各受験室に、入学生名簿を用意することとした。

・再履修者については、春休み中に学務課からリストを受け取り、所属学科、未履修単位数によってクラスを振り分けて指定し、掲示しておいた。ただ、再履修者の中には、3年生も多く(1年次で不合格、2年次はその時間帯に学部専門科目の授業を履修、3年次で英語Iを再履修)、実際には新学期開講後に申し出がある度にリストに追加することになった。

#### 2.3 新しいクラス編成

まだ、新体制での全学英語教育が1年経過していないので、検証はこれからであるが、何人かの担当者に非公式に伺ったところ、習熟度別にしたことにより、授業が以前よりやりやすくなった、という声があった。また、看護学部の学生の学習態度が真面目で、教室の雰囲気が良い、

という感想も聞かれた。金曜日の「英語 IB」においては、日本文化学部、教育福祉学部、看護学部、情報科学部の学生が混在しているため、多様な反応の学生がいて英語の授業にも好影響、という声がある一方、その時間でしか一緒にならない学生同士だとグループ・ワークなどのアクティビティがやりづらい、という反応も聞かれた。今後さらに教授者の意見を参考に検討を重ねていきたい。

## 2.4 成績評価

習熟度別クラス編成に伴い、成績評価に統一テストによる成績 50%を組み入れた。前期は7月、後期は1月の2週間、水曜午後に、クラス指定で CASEC テストを実施した。特に問題なくスムーズに実施できた。学生には徐々にこの方式に慣れていっているようである。

## 2.5 英語科目担当者の集い(2)

平成 19 年度から開かれるようになった本学英語教育担当者の集いを、今年度も非常勤講師、専任教員とで開催した。特に新体制のスタートした今年は、全学英語科目、学科専門科目としての英語科目の実情を担当者から報告してもらいながら、相互に情報を共有し、問題点を洗い出し、検討課題について意見交換をすることが必要であった。新英米学科専門英語科目と全学英語科目については、2010 年 1 月 29 日(金)専門科目 10:00 から 12:00、一般外国語科目 13:30 から 15:30 で開催した。

## 2.6 国際関係学科英語科目打ち合わせ会

日時：12月23日(水) 12:30-15:30

場所：(学内) E302 国際関係学科共同研究室

開催担当者(問合せ先)：鶴殿悦子

出席者：6名(後日の方1名を含めて)

話し合いの内容：平成 21 年度の授業内容について報告し合い、反省と提案を行った。その上で、22 年度の授業内容をどのようにしてゆくか話し合った。専任教員の数が少ないので、非常勤講師の方々と話し合うことは多くの点でたいへん有益である。

## 3. 英語空間づくり

英語に限らず外国語の習得には、限られた授業時間内だけでなく、様々な機会をとらえて実際に外国語を使ってみる、触れてみるのが肝心である。学内に少しでも英語を使うことが当たり前の雰囲気醸成し、実際に使う機会が増えるよう今年度も次のような活動を展開した。

### 3.1 英語コミュニケーション能力テスト(CASEC)全学受験

すでに上で述べたように、新入生全員の英語プレイスメント・テストとして、また前期末及び後期末のアチーブメント・テストとして、CASEC 受験を実施した。今年度から CASEC 受験が大学経常予算で手当されることとなり、次年度以降もこの部分に関しては、安定して利用できるようになった。平成 22 年度は年 4 回利用であるが、平成 23 年度以降は 1 年次 4 月、1 年次 2 月(2 年次クラス分けテストとしても利用)、2 年度 2 月の年 3 回受験となる。

### 3.2 英語連続セミナー第 3 シリーズ

今年度後期に、一般教育科目「特別講義 A」として「グローバルな視野とコミュニケーションのための英語連続セミナーIII」を開講した。3年目となる今年は、学長、トヨタ自動車役員、名古屋アメリカンセンター館長、文部科学省教科視学官など何人かは、一昨年度の講師に再度ご講演願ひ、一方で、瀬戸市美術館招聘アーティスト、愛知県立芸術大学の現代美術教授をはじめ新たな講師も願ひした。今年は建築、美術、音楽など芸術の話題もいくつか取り入れることができた。本学卒業生講師も複数いて、一種のキャリア教育にもなっている。

3 シリーズ目の今年は、講師の先生からご講演の快諾がすぐに得られ、プログラム確定の作業が非常に順調であった。過去の英文エッセイが教育研究センターホームページで閲覧できるようになっていることも有利に作用していると思われる。

今年は、第1回目から積極的に英語で質問する受講生が多く、また質問内容も講演をしっかり聴いて理解した上での深いものが多く、まさに英語での自然なコミュニケーションとなっている。英語連続セミナーが本学の特色ある教育として、定着しつつあることを実感する。

### 3.3 多言語競演レシテーション大会

昨年度県大ファンファーレの一環として開催された「多言語競演レシテーション大会」は、第1回にもかかわらず、熱のこもったパフォーマンスで、有意義な催しとなった。その時すでに学生の方から、来年度も是非開催して欲しいとの希望が出されたが、今年度も引き続き、順調に開催された。基本的には昨年度と同様、学習歴1年目の第1部、学習歴2年以上の第2部に、各言語から代表者が出て競い合った。

英語関係では、旧英文学科、新旧英米学科、国際関係学科+全学英語科目履修者から各1組、計3組が出場した。英米学科に関しては、志願者グループによる学科ミニレシテーション大会が開かれ、その選考結果により本選出場者を決定した。出場した1年生グループは、Oscar Wilde の Importance of Being Ernest の一場面を演じ、見事外国語学部長賞を獲得した。また国際関係学科・中国学科の学生によるグループは、Edgar Allan Poe の The Bells を輪唱のように詠じ、まさに鐘のなる様を表現して見事第二部最優秀賞に輝いた。

今後、外国語学部にふさわしい催しとして学生たちの切磋琢磨の場としてレシテーション大会が育っていくことを願う。その中で、それぞれの言語のもつ音やリズムの美しさ、ことばの表現する世界の豊かさが、学生たちの心を豊かにし、同時にさらなる外国語学習へのモチベーションとなっていくことと思われる。

### 3.4 「英語をすらすら読もう」英語多読のすすめ

平成20年度試験的に始めた「英語をすらすら読もう」英語多読の活動は、引き続き図書館の全面的なご協力のもと、今年度は定期的で開催してきた。英米学科の学生を中心とするTAが協力してくれ、教員が出張等で留守の時でも、学生だけで開室準備から最後の片付けまで全てを執り行ってくれた。

また、全学英語の授業の一部にこの英語多読を取り入れたクラスもあり、利用者数は安定してきた。

今年度開催日は次の通りであった。すべて時間は午後3時から午後6時、場所は図書館2階のグループ研究室Aである。

2009年 5月	15日(金)、20日(水)、29日(金)
6月	3日(水)、12日(金)、17日(水)、26日(金)
7月	1日(水)、10日(金)、15日(水)、24日(金)、29日(水)
10月	9日(金)、14日(水)、23日(金)、28日(水)
11月	4日(水)、13日(金)、18日(水)、27日(金)
12月	2日(水)、11日(金)、16日(水)、25日(金)

1月以降も数日開催予定である。

利用者数は、少ない時で数名、多い時は40数名であった。

当初用意した Penguin Readers (レベル0からレベル6)1セットに加えて、今年度にかけて、CD付き Penguin Readers を1セット、同じくCD付きの Oxford Readers (レベル0からレベル6)1セットを用意した。途中からレベル0とレベル1は大部分が貸し出し中となってしまったので、さらに年度途中で、Penguin Readers のレベル0を1セット、レベル1を2セット、レベル2を1セット追加購入した。

本学学生の英語力からすれば、レベル4あたりが中心と思われるが、それに比べると貸し出されるのはかなり低いレベルである。課外の自由活動であるので、まずは抵抗のないところから自由に楽しんでもらえばよいが、徐々にレベルを上げていってほしい。

利用者には個人ファイルをつくり、読書記録をとらせているので、希望としては、今後、期間を決めた英語多読コンテストなどを開いて更なる積極的活用を促したい。

案内は、学内ポスター、チラシに加え、後期からは、月末に翌月の開催日をポータルサイトで知らせた。また高等言語教育研究所のホームページにも掲載した。

#### 4. おわりに

以上のような英語多読活動を展開していると、やはり学内に常設の ENGLISH SPACE が望まれる。いつでも思い立った時に自分の関心やレベルにあった英語の本を手に取り、読書を楽しむことができる空間、付属 CD の朗読を聞きながら英語の本を読める空間、パソコンで e-Learning の自習教材で英語学習のできる空間、何人かと英語の DVD を一緒に見て英語でその映画について話し合える空間、留学生と英語で交流できる空間、時に学内外の講師に英語でミニ講演をしてもらえる空間。いつか学内にそんな常設の ENGLISH SPACE が開かれることを夢見ながら、本学の英語教育充実のために、来年度も地道な努力を続けていきたいと思う。